

ウォーキングマップしんせい

今年4月に東北新生園に異動となり、まだ1ヶ月程で当園のことはまだまだ解りませんが、引き継ぎの際に、「ウォーキングマップしんせい」のパンフレットを拝見し、当園を知るためには、まずは1周廻ってみようと思いパンフレットに沿って1時間程かけて散策をしました。

まだ春の陽気ではありませんでしたが、肌に心地よいそよ風を感じながら歩くと、「見晴台」は当園のなかで一番の高台にあり当園の敷地を見渡すことができました。今では建物も取り壊され以前の面影も薄れては来ているのだとは思いますが、吹く風が歴史を教えてくれているようでした。

「御歌碑」「霊安堂」「さくら公園」「しんせい資料館」・・・と当園の12カ所の名所を少なからず歴史を学びながら散策することができました。

4月は各地でさくらの見頃となります。当園のさくらも他に負けず見事に咲き誇りました。また、夕方からはライトアップされ、夜のさくらも

また見事なものでした。

夜ざくらを見ているとやはり「花見で一杯」ということで部屋に帰り美味しくお酒をいただいてしまいました。

園内敷地のさくらの苗木の植樹も650本程度にまで進み、古木と合わせると850本程となり、1,000本が目標と聞いております。数年後には苗木も成長し、有数のさくらの名所の仲間入りを果たすコトと思われます。

今から年々見事さを増していくと思われる当園のさくらの成長を見続けることも一つの歴史の証人への参加になると思います。歴史と共に後世に残して行きたいものです。

これから当園では四季折々の行事も目白押しで、夏には本格的な花火の打ち上げ、秋には屋台まつり、冬にはイルミネーション、等々の行事があると聞いており、今から楽しみしております。是非、お気軽に立ち寄ってみてください。見応え

次ページへ続く▶

目次	ウォーキングマップしんせい・・・・・・・・・・・・・・・・・・	事務長	細川一人
	脱水症状について・・・・・・・・・・・・・・・・・・	薬剤師	森田睦子
	メンタルヘルス研修を実施して・・・・・・・・・・・・・・・・	副総看護師長	佐藤育子
	行事・イベントの紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・	医療社会事業専門員	澤田佑子
	園内早春の雑景		

理念

入所者の人権を尊重し、
安心で安全な生活を提供します

基本方針

1. 快適な療養・生活環境を提供します
2. 安心で信頼される医療の充実に努めます
3. やさしい看護と介護を提供します
4. ハンセン病の正しい知識の啓発普及に努めます
5. 職員の教育・研修に努めます

入所者の権利

当園では、園の理念に基づき、入所者のみなさまの

- 人格を尊重される権利
- 良質な医療を受ける権利
- 十分な説明と情報を受ける権利
- 自己決定の権利
- プライバシーが保護される権利

を尊重します。

は充分にあるということです。

当園を一周し、日頃の運動不足のせいか、息も上がりっぱなしでしたが、心地よい一時を過ごさせてもらいました。皆様も健康増進に、また歴史や自然の空間を感じられる一時を、是非実感してみてください。

ウォーキングマップは、どなたでも、いつでも、自由に出来ますので、お越しいただき東北新生園の歴史に触れて見て下さい。

当園の周辺では以前に、夏に伊豆沼へ「ハスまつり」を見に行ったことがありました。ボートでハス畑を回るのですが、非常に広大で実に爽快感がありました。今度は、冬の渡り鳥の時期にでも伊豆沼を体験したいと思っています。

まだ、園内の散策も充分に出来ておりませんが、これから新緑の時期に周辺にも足を伸ばして、いろいろなお楽しみスポットを見つけて行きたいと思っています。

事務長 細 川 一 人



脱水症について

私たちの体の大半は、体液という水分で成り立っています。体液とは、血液、リンパ液、唾液、粘液、消化液、尿など、人間の身体が生命活動を行ううえで欠かすことのできないものです。この体液は年齢によって違いがあり、成人で体重の6割、高齢者で5割、新生児では7～8割です。

体液は体内に入ってきた水分量と、体外へ出ていった水分量とが変わりがないことでバランスが保たれていますが、激しい運動で多量の汗を流すことや、夏の気温の上昇、嘔吐、発熱、下痢などの体調不良により、多量の水分が失われると体液は減少してしまい、補給が追いつかないと脱水症状が起こります。

脱水症では、めまいやふらつき、頭痛などの症状がみられます。重度になると、嘔吐や意識障害、けいれんといった症状もですが、そうなる前に治療を行うことが必要です。

水分が失われると血液濃度が高くなり、いわゆる血液ドロドロ状態になってしまいます。

これにより血行が悪くなると、体調不良だけでなく脳梗塞や心筋梗塞などを誘発する可能性もあるので、予防に努めることが大切です。

運動を始める前には、ミネラル分を含むスポーツドリンクなどで十分な水分補給を行いましょう。

就寝時、入浴前後、飲酒の後は、特に体内で水分が少なくなりやすく、濃い尿が出る場合、尿量が減ってきたときは要注意です。また飲酒時はアルコールを代謝するために水が使われます。喉が渴いてから飲むのではなく、こまめに補給することを心掛けましょう。

夏は発汗も多く、高温多湿の気候に体が対応しにくくなり、いわゆる「熱中症」を起こしやすい時期で

す。発汗からミネラルを失いやすくなるため、水分と共に損失分のミネラルを補給して体の体液組成バランスを保ちましょう。また、温度調節や服装などにも気を配り、余分な発汗を防ぎ、体温調節を心がけるのも効果的です。

冬場は乾燥によって粘膜にウイルスが付着し、さまざまな感染症が起こりやすくなります。なかでも冬に発症しやすいウイルス性の風邪や胃腸炎は、嘔吐や下痢を起こしやすいため脱水のリスクが高いといえます。またインフルエンザなどの高熱を発する病気でも、熱を下げるために大量の水分を必要とします。病原体と共に体液を大量に失ってしまうため、症状が起きる前にあらかじめ脱水対策をしておきましょう。

日常的に摂取するものは体温に近い常温のものが吸収によいといわれていますが、運動時や熱中対策をしたいときなどには5～15℃の水分を補給するのがよいといわれています。



脱水は十分予防できる症状です。あらかじめ必要な水分を摂取しておくことで、さまざまなリスクを減らすことが期待できます。水分補給を十分に心掛けて健康維持に役立てましょう。

薬剤師 森 田 睦 子

メンタルヘルス研修を実施して

「アロマセラピーとハンドマッサージを通して心も体もリフレッシュ」を目的に、日本エッセイ協会 認定指導講師 ソシオエスティシャン 瀬戸真由美先生を講師にお招きし、平成29年1月27日（金）にメンタルヘルス研修を行いました。アロマセラピーは、植物から抽出した香り成分である精油を使って、心身のトラブルを穏やかに回復し、健康や美容に役立てていく自然療法です。日常の人間関係や労働等で生じる「ストレスとの付き合い方」のひとつに、アロマセラピーを簡単に用いることで、心のバランスを整えられると言われています。また、ハンドマッサージは血管や神経が集中している手のマッサージによって、脳の血行がよくなり、脳内の細胞活性化も期待できると共に多くのツボを自然に刺激することでストレス軽減効果やポジティブな感情が増加する等ストレスの緩和が期待できます。



瀬戸真由美先生の講義



ハンドマッサージ体験



ストレス対処法体操

研修は、① ストレス対処法体操 ② ハンドマッサージ ③ アロマ湿布体験 ④ アロマ芳香浴体験 ⑤ アロマ入浴剤作りを体験するという内容でした。研修中は、研修生がお互いにペアになり楽しそうにハンドマッサージを実践しました。また、アロマ体験時にはいろいろな香りに興味を示し、アロマ湿布や芳香浴体験時は、「気

持ちがいい」と言う言葉が聞かれ、研修室が静かになりリラックスできる空間に包まれました。研修終了時には、研修生より笑顔が見られ「よかった」との声も聞かれました。今後も、皆が楽しめる研修を考えていきたいと思います。

副総看護師長 佐藤 育子



アロマ芳香浴体験

仙台光のページェントのバス旅行を実施しました



平成28年12月13日、第31回を迎える仙台光のページェントを観覧しました。このイベントは、仙台市が杜の都の象徴としているケヤキ並木をライトアップしようと昭和61年より始まり、新生園のバス旅行としては平成16年より続いています。当日は宮城県庁舎の18階のレストランにて、県内産のかぼちゃなど地元の食材を使った夕食を戴きながら、参加者にはクリスマスプレゼントが配布されました。また仙台の街並みの夜景写真を撮影し、楽しみながら時間を過ごされていました。いよいよ点灯時間が近づき、県庁を出発して正面から点灯の瞬間を観覧出来るよう待機、そしてカウントダウンと共にライトアップされました。光り輝く約60万球のLED電球が施されたケヤキ並木の間を通行し、車内から見える美しい絶景に入所者の皆さんもじっくりと観覧されていました。



今年も渡り鳥が飛来しました



当園南側の池に飛来する白鳥

新生園の中央にあたる場所には睦ヶ池という池と、南側に小さな池があり、毎年白鳥が飛来します。昔は入所者の方がパン屑や茶殻を集めて餌付けをされていたましたが、白鳥の数も増えて畑にも被害が出るとのことで、役場から提供して頂いたこともあったようです。撮影に行くと南側の池に飛来していることが多く、何

故広くて泳ぎやすい睦ヶ池の方に来ないのだろうか疑問に感じていました。すると入所者のお一人から、「睦ヶ池は深すぎる。奥の池の方が浅くて、蓮の実を食べやすい。畑も近くにあって餌には困らないんだ。」と教えて頂き、納得することが出来ました。現在も変わらず畑に残った作物や蓮の実を食べる姿に、当時の情景を思い浮かべています。近隣には伊豆沼・内沼・長沼と三カ所の大きな池がありますが、新生園と同じく7～8月には蓮の花が湖面に拡がり、蓮まつりが開催されて遊覧船に乗船する観光客で賑わいます。冬季には県内有数の渡り鳥の飛来地として、日の出と共に飛び立つ様子も見られるため、12月の末に私も観覧しに行きましたが、大勢の人が土手に並び撮影をしていました。

鳥達は夜明けに合わせてざわざわと打ち合わせをしているようで、生き物の生命を身近に感じられ感動致しました。今年は暖冬で、「雪が降らないと農家が困る。」と入所者の方から仰っており、寒さや雪は作物の甘味を促し、害虫の発生数も減らすとのことでした。

天候の影響は人間だけではないようですが、来年も白鳥が飛来してくれることを心待ちにしています。

医療社会事業専門員 澤 田 佑 子



伊豆沼に飛来する白鳥

園内早春の雑景

蕾が付け咲くのを待つさくら（しんせい資料館前）



新緑のパークゴルフ場



咲き始めた白梅・紅梅（治療棟～第1メープルケアセンター渡廊下）



園内で咲き誇る草花



職員募集

当園では、次のとおり職員を募集しております。採用を希望する方はお気軽にお問い合わせください。

1. 採用職種
 - ①看護師 ②看護助手
- 1) 身分
 - ①定員職員 ②期間業務職員
- 2) 採用予定期間及び採用人員
 - ①採用の日～ 6名
 - ②採用の日～ H30.3.31 8名
(年度更新)
- 3) 応募資格
 - ①看護師免許取得者 ②経験・資格不問(どなたでも応募できます。)
- 4) 勤務内容
 - ①看護業務(三交替制、早出・遅出有り) ②介護業務(日勤、早出・遅出有り)
 - ①②1日あたり 7時間45分 週38時間45分勤務
- 5) 加入保険等
 - ①共済保険、厚生年金 ②協会けんぽ、厚生年金 に加入
 - ※②の職員は、1年経過後から共済保険に加入となります。
- 6) 応募方法

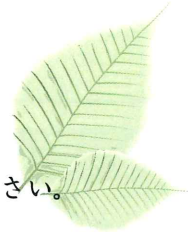
市販の履歴書に写真貼付、看護師は免許証(写)を郵送又は持参
豊かな自然に恵まれ、四季折々の行事、数々の訪問行事を行っておりますので、
入所者の皆さんと関わり合いながら楽しみながら当園で働いてみませんか。
看護・介護の研修体制も充実しておりますので、
初めての方も心配なく安心して働くことができます。
興味のある方は、当園のホームページに、看護課の方針、看護体制、研修計画、
処遇等を掲載しておりますので是非ご覧いただき、お気軽にお問い合わせください。
- 7) お問い合わせ、応募先

〒989-4692 宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1

国立療養所東北新生園

TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765

E-mail 2302sy01@sinseien.nhds.go.jp



入所者数の推移

年度	入 所 者 数			退 所 者 数					平均入所者数
	再	新	計	軽快	死亡	転園	その他	計	
19			0		7			7	148.4
20			0		10			10	139.9
21			0		2			2	135.2
22			0		10			10	129.4
23			0		14			14	118.0
24			0		11			11	105.1
25			0		10			10	95.3
26			0		4			4	86.7
27			0	2	9			11	79.6
28			0		3			3	71.5



発行元 国立療養所東北新生園
National Sanatorium Touhokushinseien

発行責任者 国立療養所東北新生園
広報誌編集委員会

〒989-4692
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
TEL 0228-38-2121 FAX 0228-38-3765
URL <http://www.nhds.go.jp~sinseien/>
E-mail admin@sinseien.nhds.go.jp